

◆teku-teku 2010★アーツCYD3331を訪ねて(活動記録+評価集計結果)◆

企画■コンバージョンとアートの出会い ～アーツCYD3331の実験～

日時■2010年12月10日(金) 19時頃～21時頃

コース■地下鉄・末広町駅～練成公園+旧練成中学校・アーツCYD3331 (ギャラリー、ショップ、スクール、アトリエ、日比野克彦個展、カフェ他)

参加者■◎大竹 亮、井手幸人、栗原徹、呉祐一郎、溝辺正浩、森 正代

(以上6名、敬称略、◎コーディネイター)

企画主旨■最近、アートのまちづくりが各地で盛んですが、10月の谷中芸工展、11月の墨東まち見世に続き、今回は、旧千代田区立練成中学校の建物をコンバージョンした「アーツCYD3331」を訪問します。都心の統廃合された学校校舎を活用した本格的なアート拠点です。金曜日はギャラリーが20時まで開いていますし、内部見学は21時まで可能で、併設のカフェ(food lab)は23時まで営業しています。コンバージョンとアートの出会いが街に何をもたらすのか、訪れてじかに感じ取りましょう。

<参加者の意見・評価>

1◆アーツCYD3331について (全体)

評価:3.80 内訳:AABBB

A:学校の各部屋を賃貸している方々の個性でリデザインされているが、なぜか統一感があって楽しい。また、従前の学校の雰囲気も残っているのもいい。緩やかな管理のためか、全体に自由な感じが漂っている。

A:中学校の外観はあまり変化がないのに、内部が相当手が加えられ、まったく新たな空間になっている意外性が良い。

B:小中学校の廃校舎は都心から地方まで数多く生まれているが、このような芸術活動に貸し出すことを決めた公共団体と、それを円滑に運営している管理主体に敬意を表します。

B:廃校となった校舎の活用方法としては、なかなかいいと思うが、そこで展開されているアートについては、あまり感動しなかった。

B:自由に出入りできる楽しい場所になっているし、内部の空間も活動も多彩で面白いと思うが、今ひとつ魅力に欠けるような気がする。なぜだろうか。



復興公園側から見た夜の3331



教室を転用したギャラリー&ショップ

2◆印象に残った場所、展示、ことなど

カフェ・フードラボ★入口横にあり、夜遅くまで開いていて利用しやすい。出入りする人が見えるので、顔見知りになり声をかけたり仲間と合流できたり、楽しそうである。

カフェ・フードラボ★全体的に落ち着いた雰囲気だが、一部ビニルシートのようなもので仕切られた部分があるなど、ポップさも感じられる不思議な空間。

カフェ・フードラボ★この辺りの秘密の隠れ家、有名にならないでほしい?

A/Aギャラリー&ショップ★小物がたくさん並んでいるが、展示方法も楽しく、手作りの商品も魅力的。

A/Aギャラリー&ショップ★障害者の方の絵画+商品が販売されているショップ。色合いがとてもすてきな絵や小物があって楽しい。

ギャラリー大作戦2★特別教室のいろいろなコーナーや設備を活かし、多彩なアートを展示していた。参加メンバーの作風や素材・手法が全部違うのも楽しい。

アキバタマビ21★意味するところが良くわからないが、とても大胆で印象的なインスタレーション群が教室内に並んでいた。作者（多摩美の学生さん）とお話して、意味よりも感覚が大切なのだと理解したが、そのためには作品とともに展示空間がとても重要だと思った。

地下のハーモニカ専門店★ドイツ製のハーモニカのキーフォルダーはおすすめ。

ODATE（ゼロダテ）★こういう場を活用して、地方の情報を発信するという発想がいい。

ODATE（ゼロダテ）★大館で始まったアートプロジェクトの東京活動拠点。参加メンバーに秋田関係者が多かったのも、アーティストとずいぶん長く話し込んでいた。こうした意外な出会いが面白い。

日比野克彦個展★作者のポップ性が素直に伝わる展示で、とても楽しかった。

日比野克彦個展★壁床天井が存在しないかのような純白の無重力空間を創り出しており、非常に驚いた。

日比野克彦個展★やっぱり日比野はすごい！

★どこ、というよりどの教室でもいきいきとした若い人達がいて、見る側も元気になったし、活動を頑張ってる感じがしました。



ゼロダテ（大館）で語り合う秋田関係者たち



日比野克彦個展の不思議な無重力空間

3 ■リノベーションの観点から、アーツCYD3331のような廃校校舎の活用法はどのように思いますか。

●かなり大きな施設だが、多くの人々（グループ）によって有効に使われていると感じました。ちょうど1階ではイベントも開かれていて企画もかなりのレベルのようですし、多くの聴衆を集め新たな交流、集客施設としての役割を果たせばいいと思います。

●なにかこの空間から新しいものが創造されるような場だと思います。実験的であるのであろうが、夜遅くまで開いていることや緩やかな管理であることなど、学ぶところは多いと思う。

●学校の教室は、規模からみてギャラリー等に適していると思うが、ここまでのじりのは、リノベーションの利点が薄くなるのではないかと。外観をあまり変えていないのは、街の記憶のためにも良いと思う。

●廃校の活用について、住宅系や福祉系にしようと思うと、かなりの費用が必要となるが、アート系だとあまりコストがかからないので、活用方法としては向いていると思う。

●廃校校舎は多く存在しており、更地売却でない活用方法が見つかると思われ、汎用性が高い。今までは改装なしの一時的な利用と、完全な改修による恒久的な転用しかなかったが、ここでは共通部分（カフェ、ホール等）のみ手を入れ、あとはテナント（アーティスト）の自由に委ねている。また、数多くの主体に利用してもらうことが、活動の相乗効果や場自体の変容につながっていく仕掛けがあると、（まさに都市的で）非常に面白いだろう。



編集室、ギャラリー、スクールの複合体も



廊下には手洗い場を残して共同利用

4 ■まちづくりの観点から、アーツCYD3331は外神田の街にどのような効果をもたらすと思いますか？

●今回見ただけではよく判らないが、この施設だけでは、外神田の街に対しての影響はほとんどないと思う。相乗効果をもたらすようなものが、いくつか出来てネットワーク化されれば、街づくりに活かせるようになるのではないかな。

●今回の見学だけでは、地域の人達がどのように感じ、何か結びつきなどが始まっているのか、また千代田区がどのようなコンセプトでこのような活用をしているのか、分からなかったのでコメントは難しいが、ぜひ若い人達と一緒に楽しみながら街の活気につなげていてもらいたいと思います。

●今回だけの印象だが、大きな箱の中で活動が完結して閉じた場になっているように見える。活動を地域に開き、企業・店舗・住民等との共同の取り組みが進むと、街に変化をもたらす効果が出ると思う。

●前庭を変えることで人の集まる場ができ、夜まで利用できる施設としたのは、これまでの子供中心の利用を損なわずに利用者の幅を広げることができていて、まちの（特に夜間の）活性化につながると思う。

●アキハバラに来る人種とは違った人種が集まってきている。そのうちに近くに関連する施設やショップが出来るのではないのでしょうか。



1階のコミュニティスペースでのイベント



タマビアカキバに並ぶ大胆な学生作品群

5 ■その他、今回の企画に対する感想など自由に

●引き続き、既存の建物を改修することにより、街を活性化していこうとしている施設などの現象を見て回りたいです。（I・Y）

●この手のものは、外から見ると、やっている側の方がずっと楽しいものです。そういう点では、この運営などの仕組みを、街づくりに楽しみながら参加するという形に応用できるのではないかと思います。（K・T）

●忘年会にも参加させていただき、楽しい下町のひとときを過ごすことができました。ありがとうございました。（G・Y）

■コーディネーターより

市谷加賀町のシェアハウス見学会でたまたまお会いした東京大学M教授に「これからはリノベーションの時代、そのモデルが旧練成中学校だ、ぜひ見なさい」と推奨されたのがきっかけで、今回の企画を組むことになりました。20世紀に大量に造られた建物が当初の役割を終えた後、21世紀にどう活かしていくか、象徴的な大いなる実験であると思います。まだまだじっくり来ていないような印象もありましたが、確実に動きが始まっていることに期待したいと思います。急な企画、しかも平日の夜（teku-teku 初の平日企画！）にもかかわらず、参加された皆さん、ありがとうございました。（O・R）

